

働き方改革通信

シリーズ

笑顔をつくる働き方改革

三川町立三川中学校

新館 啓一 校長

令和8年4月から「改革実行期間」へと移行する部活動の地域展開。三川町教委と連携して「部活動の地域展開」を進める中、「生徒の活動時間の保障と教員の働き方改革を両立する」取組みをうかがいました。



☆日課表の変更から改善すすむ☆ ☆生徒も教員もゆとりが生まれ、WIN&WINに☆

Q：部活動の地域展開で先進的な取組みをなさっているという情報をお聞きしました。早速ですが、具体的にはどのような取組みを進められているのでしょうか？

A：まず、本校の部活動の地域移行・地域展開は、学校だけで進められることではなく、町の教育委員会や田川地区全体で進められているものである。また、三川町スポーツ文化振興協議会が会議の仕切りから指導コーチへの連絡調整等まで担ってくれており、学校側の負担が大きく軽減されている。

Q：現在、土日の部活動や教員の部活動への参加状況などはどうなっていますか？

A：土日の部活動は、全て地域クラブ活動となっている。また、教員の兼職・兼業については、今年度については誰も申請していない状況。地域の指導者の掘り起しが進んでいるためと思われる。指導者と顧問の教員との連携もとれており、教員側に専門知識がなくてもスムーズに指導体制を構築できる強みがある。

Q：町のバックアップが素晴らしいですね。学校側の取り組みとしてはどのようなことが挙げられますか？

A：令和6年度には、教育課程の組み換えを行い、日課表の工夫を行った。目的としては、生徒の帰宅後の家庭で過ごす時間や休養時間（心身ともに休ませる）を増やすこと、家庭学習の時間を増やすこと、年間を通じて部活動の時間を確保すること。部活動は火・木・金の週3回。火曜と木曜を5時間授業とし、清掃なし、部活動は2時間確保。16:45に下校。月曜と水曜は6時間授業とし、部活動はお休み。16:10に下校。金曜は6時間授業に清掃あり、部活動を2時間とし、18:00に下校とした。冬季間は安全確保の観点から、17:30には下校とした。今年度から冬季間は金曜も5時間授業とし、16:45下校とする予定。

Q：しっかり部活動の時間は確保されているんですね。保護者の反応や教員の働き方に変化はありましたか？

A：制度の導入や冬季間の変更に際して、保護者には学校便りやPTA総会などで、理由や目的などを丁寧に説明した。保護者からの問い合わせなどもなく、ご理解いただけたものと捉えている。完全下校が16:45になったこと、5時間授業の日に部活動を設定したことを含め、教員のワークライフバランスが向上し、私的な時間や教材研究に充てられる時間が増加している。

Q：生徒の活動や学習への影響などは、どのように見ていらっしゃいますか？

A：下校が早まったことで、生徒は心身ともにゆっくり休めており、家庭学習にも良い影響が現れている。

～ 裏面に続く ～



A : 現在、部活動の加入率は50%ほどであり、学校に部活動がない競技や、学校の部活動とは別に競技を極めたい生徒（サッカーやバドミントン等）は地域クラブで活動している。生徒たちの価値観の変化に合わせ、しっかり活動したい子たちへのケアにもつながっている。

Q : 休日の地域への施設開放の課題には、どのように対処なさったのですか？

A : 校舎1階にある音楽室を、休日に地域指導者が利用する際、セキュリティ設定が課題となつた。具体的な解決策としては、赤いロープを張ることで開放エリアを区切り、セキュリティを再設定することで休日の活動が可能になつた。この方法により、非常に低コストで対策することができた。



赤いロープで出入口から音楽室へのスペースを区切っている

Q : 今後に向けての考え方などがあれば、お聞かせください。

A : 部活動の地域展開の取組みは、学校単独での解決は難しく、教育委員会や地域との連携がとても大切。生徒たちにとってベストな体制を整えていくとともに、先生方のワークライフバランスの実現に向けて、今後も継続して取組みを行っていきたい。

令和7年度上期の時間外在校等時間

全校種において最も少ない上期時間外在校等時間となりました!!

項目	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
上期月平均時間外在校等時間 (前年度比)	31時間47分 (-1時間59分)	38時間28分 (-3時間18分)	19時間38分 (-1時間20分)	39時間54分 (-0時間46分)
《第Ⅱ期プラン目標》 上期月平均 80時間超人数	3人(0.1%) (-3人)	24人(1.1%) (-14人)	0人(0.0%) (±0人)	122人(6.9%) (+14人)

◎学校、先生方の前向きな取組みにより、例年多忙な上期においても全校種で40時間を下回りました。

◎中学校の改善が大きく進んでいます。特別支援学校は80時間超0人を継続しています。

▲今後、80時間を超える長時間勤務の方々をいかに減らしていくかということが課題となっています。

★取組み状況チェックシートのまとめより★

「教育課程見直し」による取組みで成果が上がっている学校が増えています。時程の見直しや部活動日数の削減などと組み合わせることで、放課後にゆとりが生まれ、早めの退勤につながっています。	保護者や地域からの教員の働き方改革への理解が広がっています。勤務時間内での電話対応やメールシステムによる連絡、PTA行事の精選や学校行事の平日開催への理解など、学校からの情報発信が成果として表れてきています。	校務支援ソフトの活用による情報共有や会議の効率化など、DXの推進による働き方改革が、校種を問わず報告されています。情報伝達が円滑に進むことにより、チームとしての動きも高まることが期待されます。
--	--	--

活用の工夫

支援員の力を、仕組みづくりや得意分野を生かすことで大きく広げ、学校全体の働きやすさと子どもと向き合う時間を確保!!

次の枠内のような取組みが見られました。ぜひ参考にしたいものです。



業務量配慮と依頼調整の仕組みづくり

◆依頼方法の工夫

依頼ボックスやカード、印刷依頼書、タスクボードなどを活用し、誰でも気軽に依頼できる仕組みを整えた。

◆窓口や調整役の設定

窓口担当（教頭や教務主任など）や、取りまとめ担当（学年主任など）を置くことで、学校運営をふまえて依頼が偏らず業務量を調整できた。

◆計画性・見通しの共有・過重負担防止

業務の優先順位を明確にし、ホワイトボードで業務を見える化するとともに、週・学期・年度単位の予定表や業務リストで見通しを共有した。

◆無理のない範囲での依頼

支援員の勤務時間や体力に応じ、急な依頼はできるだけ避けて余裕を持って依頼した。



職員とのコミュニケーション

◆定期的な打ち合わせ

週1回の打合せや出勤時の確認、勤務後の振り返りで業務と情報共有をスムーズにした。

◆業務の共有・周知

職員会議や打合せで支援員の活用方法を提示し、他学年の依頼事例を共有した。

◆事務補助職員・市職員との協働

依頼や情報共有を通じて、効率的に業務を進めた。



支援員の特性・得意分野を生かす

◆専門性の活用

PCスキルによるデータ処理やHP更新、書道・栽培・演奏など特技を生かした活動をした。

◆学校固有の業務

相撲大会の衣装準備、清掃や修繕、給食準備や低学年支援など、本人の希望と合わせた。

◆主体的な参画

支援員からの提案や気づきを取り入れ、業務改善や活動の幅を広げた。

校種毎の特徴

校種の強みを知り、さらに効果的に!!



小学校

教材準備・採点・印刷・給食補助・提出物点検など担任業務を幅広く支援している。

特徴：担任業務の支援が中心で「学級経営」に効果

支援の中心

担任補助

中学校

メール処理・文書受付・掲示物・電話来客対応など学校全体の業務を幅広く支援している。

特徴：学校全体の運営効率化に効果

支援の中心

学校運営・事務補助

特別支援

清掃・図書整理・会計・印刷など、環境整備から事務補助まで多岐にわたり支援している。

特徴：個別支援時間と心理的余裕の確保に効果

支援の中心

環境整備・事務補助

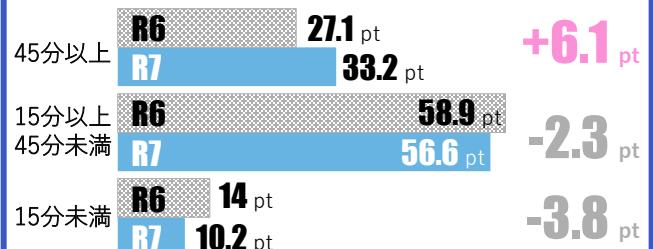
効果

効果なし減少・効果大拡大—支援員の有効性が明確に!!

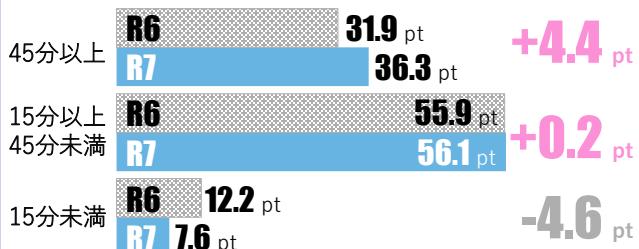


0分以上45分未満の時間創出層は昨年と同様に55pt以上で安定しており、0分（効果なし）が減少した分、45分以上の効果を実感する教員が増加しています。

① 児童生徒と向き合う時間がどの程度増えたか



② 教材研究、授業準備、評価等の時間がどの程度増えたか



③ 退校時刻をどの程度早めることができたか

